

## 熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2024年12月調査)

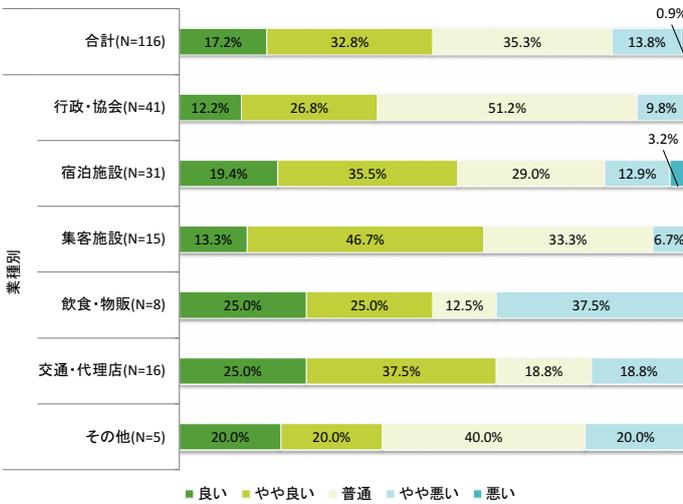
「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2024年12月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:278、回収数:116、回収率:41.7%、回収期間:2024年12月20日～2025年1月10日)  
本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

### 1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (10月～12月)	見通しDI (1月～3月)
合計(N=116)	62.9	52.2
行政・協会(N=41)	60.4	57.9
宿泊施設(N=31)	63.7	41.1
集客施設(N=15)	66.7	51.7
飲食・物販(N=8)	59.4	46.9
交通・代理店(N=16)	67.2	56.3
その他(N=5)	60.0	70.0

10～12月の熊本県の現状判断DIは62.9となり、前期(55.0)から7.9pt上昇した。すべての業種で景況判断の節目である50を上回った。  
好況の要因として、引き続きインバウンド需要が好調であることに言及するコメントが多い。加えて、記録的な猛暑から季節が移り、行楽シーズンに入ったことで人流が回復したとの声も散見された。一方、物価の高騰を背景に、売上増ではあるが利益率が下がっていることを指摘する声もみられた。  
見通しDIは52.2となり、前回(59.9)から7.7pt低下した。行政・協会、集客施設、交通・代理店の3業種でDIが50を上回った。  
見通しを判断する要因として、昨年同時期と比較した予約件数の増加やイベントの開催などを挙げる事業者がいる一方で、燃料費の高騰や感染症の流行による影響への懸念が散見された。

### 2. 10～12月期の動向、景況感

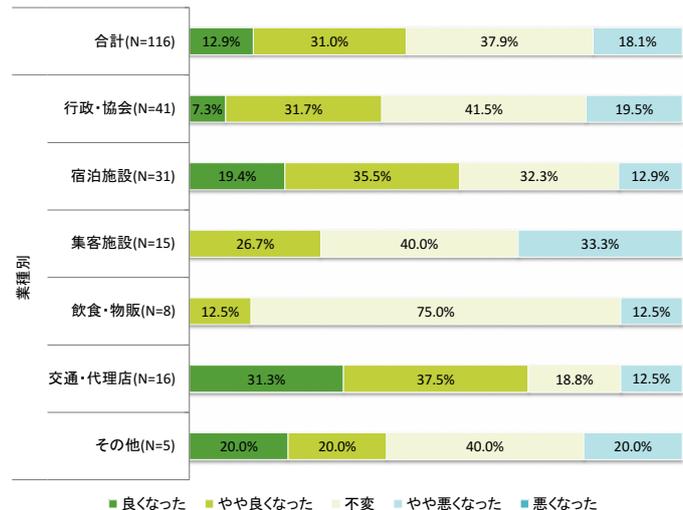


10～12月の景況感は全体では「良い」と「やや良い」の合計が50.0%、「悪い」と「やや悪い」の合計は14.7%となった。宿泊施設、集客施設、交通・代理店の3業種で「良い」と「やや良い」の割合が過半数を占めた。

#### 【コメントの抜粋】

- 良い  
インバウンド需要が好調(交通・代理店)
- やや良い  
宿泊は国内外含めて行楽シーズンということで需要が多かった(宿泊施設)  
天候に恵まれたこと(集客施設)
- 普通  
売上は上がっているが、原材料費が高騰しているため利益率を圧迫している(宿泊施設)  
宿泊客数は昨年とほぼ同様であるが、客単価は値上げ分上昇している。一方で飲食は昨年度より若干悪くなっているため(宿泊施設)
- やや悪い  
物価高により消費意欲の減退(飲食・物販)

### 3. 7～9月期に比べた10～12月の動向、景況感

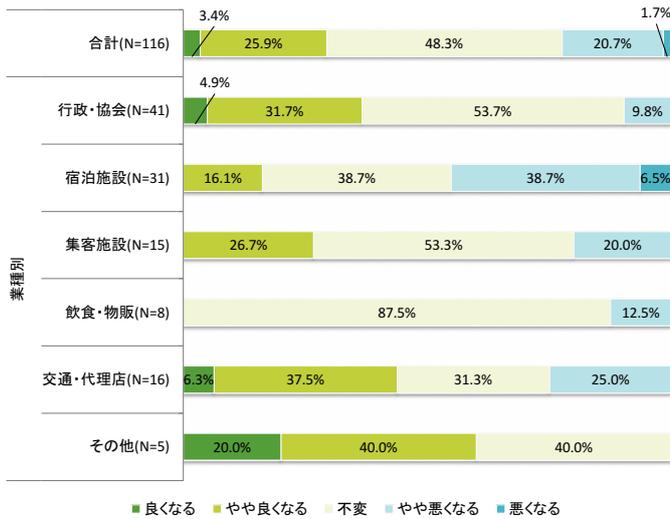


7～9月期に比べた10～12月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が43.9%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は18.1%となった。  
業種別にみると、宿泊施設、交通・代理店で「良くなった」と「やや良くなった」の合計が過半数を占めた。

#### 【コメントの抜粋】

- 良くなった  
例年の教育旅行に加え、団体旅行やイベントなど活発になっている(交通・代理店)
- やや良くなった  
行楽シーズンを迎え、7～9月期以上に様々なイベントが開催された(宿泊施設)  
秋のグルメフェアや新規宿泊施設のオープン等(行政・協会)
- 不変  
予約は若干増えても、物価高騰で出費が増えたのでよくなった感はない(宿泊施設)  
安定して集客状況が推移している(集客施設)
- やや悪くなった  
地元の利用が少ないと判断している(交通・代理店)

#### 4. 今後、2025年3月までの業況の見通し



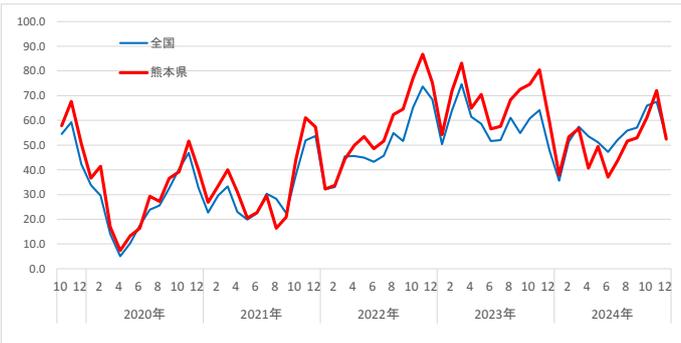
今後15月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は29.3%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は22.4%となった。  
業種別にみると、「その他」以外の業種で「良くなる」と「やや良くなる」の合計が全体の半数を下回った。

#### 【コメントの抜粋】

- 良くなる  
引き続き旅客動向は堅調なため(交通・代理店)
- やや良くなる  
先々までの宿泊予約が昨年より好調のため(宿泊施設)  
2月に高雄線が就航することもあり、人気の台湾のコースバリエーションが増え、需要が高まることが予想されるため(交通・代理店)
- 不変  
閑散期に入るため、変わらないか悪くなる(行政・協会)  
観光業界はオフシーズンになりますが、昨年と比べ変わらないと思います(交通・代理店)
- やや悪くなる・悪くなる  
燃料代の高騰が予想されることから、車での外出控えが進むと考えるため(行政・協会)  
インフルエンザ・コロナ等の感染によるキャンセルが増えてきた(宿泊施設)

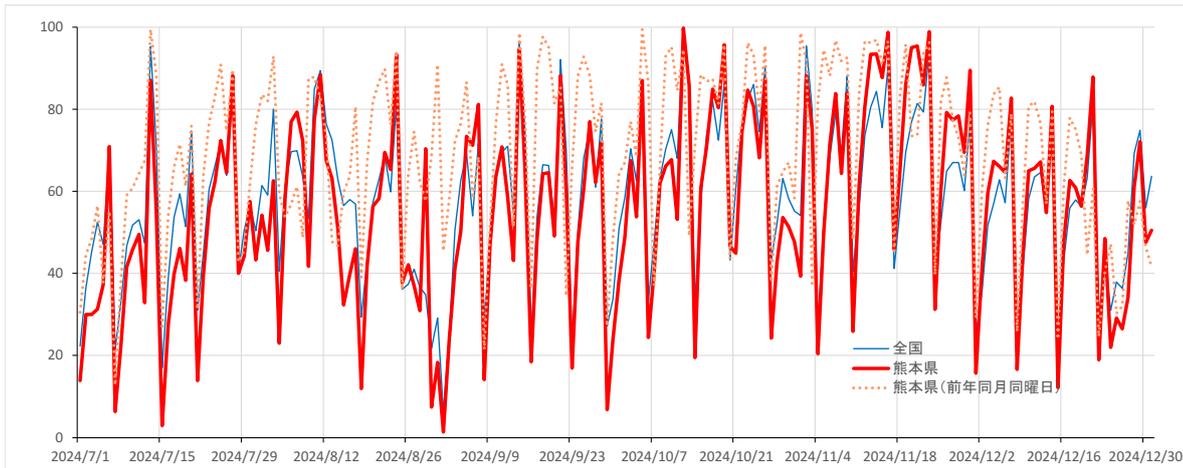
#### 5. 宿泊稼働指数の動向

##### ①月次別(2019年10月～2024年12月)



2024年10月における熊本県の宿泊稼働指数は61.2(前年同月差▲13.4pt)、11月は72.1(同▲8.4pt)、12月は52.4(同▲7.0pt)となった。  
2023年10月から2024年12月にかけて15か月連続で前年同月の指数を下回った。また、2024年11月には9か月ぶりに全国と同指数を上回り、2024年12月も同水準(全国同期差▲0.8pt)となっている。  
引き続き、旅行支援施策の縮小などを要因として同指数は前年から低下がみられるが、その低下幅は前四半期と比較して小さくなっており、低下傾向に一服感がある。  
地域別にみると、菊池市、玉名市、益城町など県北部で前年同期差がプラスに転じている地域が散見される。前四半期は地域の建設需要の一服に伴い同差がマイナスであったため、指数が底を打ったとみられる。

##### ②日次別(2024年9月1日～12月31日)



熊本県の宿泊稼働指数を日次別(原数値)でみると、10月中旬から11月下旬の行楽シーズンは週末を中心に指数が高位で推移している。一方、12月はやや落ち込みがみられた。今期で最も指数が高かったのは、10月12日(土)であり、3連休の初日であったこと、最高気温が30℃を下回り残暑を脱したことで観光人流が回復したことが要因と考えられる。  
指数の前年同期差がプラスの日は10月に5日、11月に10日、12月に10日間あり、上述の通り、指数の低下傾向に一服感がみられる。  
全国と比較すると、今期は土日祝日を中心に熊本県が全国を上回る日が多く、特に10月から11月にかけてその傾向が顕著であった。ただし、12月には平日において熊本県の指数が全国を上回る日が増加している。

## 用語解説

### ※DI(ディフュージョン・インデックス)

同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

### ※宿泊稼働指数

宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020年4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left( \frac{\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}}{\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}} \right) * 100$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。